

☆masaki

学校教育目標 「自らの良さを認め 共に伸びる生徒の育成」
校 訓 「真面目にします 仲よく協力します よい言葉を使います」

未来に向かって飛び立とう!!

第77回卒業証書授与式 校長式辞要旨

柔らかな日差しや、暖かくそよぐ風に、春の到来を感じます。本日は、御多用の中、松前町町長 田中浩介様をはじめ多くの御来賓の皆様のお臨席を賜り、令和5年度、第77回松前中学校卒業証書授与式が厳粛に挙行できますことを心よりお礼申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、9年間の義務教育を終え、たくましく成長されたお子様の姿を前にして、感慨もひとしおのことと存じます。心から御慶び申し上げます。

改めて卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんが中学3年生になった4月の始業式に、「見本ではなく、手本になって欲しい」というお話をしました。覚えていますか？卒業生の皆さんは、期待



どおり、松前中学校の最高学年として、様々な行事で下級生をリードしてくれました。その、ひたむきに取り組む姿は、まさに下級生のよき手本でした。

「青春開花 ～今を大切に 高みを目指して～」この大会テーマのもと、一丸となって臨んだ最後の運動会。インフルエンザの流行で開催が危ぶまれましたが、下級生をリードし、感動のある運動会を作ってくれました。また、楽しい中にも文化の香りが溢れた文化祭。ステージでの発表では、大いに場を盛り上げ、3年生としての存在感を示してくれました。皆さんへ感謝したいことは、まだまだ語り尽くせぬほどあります。



その様な皆さんの卒業に際して、「艱難(かんなん) 汝(なんじ)を玉(たま)にす」ということわざを贈ります。艱難とは「困難に会い、苦しみ悩むこと」で、汝とは「あなた」のことです。つまり「困難に出会って苦しむことで、あなたは、立派な人に成長する」という意味です。

昨年の3月、日本中を熱狂させたワールド・ベースボール・クラシックが開催されました。決勝戦では、日本とアメリカが対戦し、3対2で日本が勝ち、3度目の優勝を勝ち取りました。





この勝因が選手の実力だけでなく、チームの結束力・団結力であったことは誰が見ても明らかではなかったでしょうか。その陰には、数多くのスター選手を発掘し、大谷翔平選手を二刀流として成長させた、栗山英樹監督という存在がありました。栗山監督は、日本代表チームの監督として就任するや否や、個性豊かな選手たちの心を掌握し結束させました。そして、見事に日本を3度目の優勝に導いたのです。その手腕は、素晴らしいとしか言いようがありません。

その栗山監督が自身の著書の中で「人には、本当に追い込まれて苦しまないと思えないものがあると思っています。だからこそ、選手にも、「苦しんで、もがき苦しんで、悩みに悩んで。でも、何もできない。そんな時にしか、成長のチャンスはないんだよ。」とよく話をすると

言っています。そういう栗山監督自身も日本ハムファイターズの監督時代には、なかなか勝利に恵まれず「自分の無力さに何度も絶望させられた。」と語っています。そして、だからこそ、「チームの勝利に貢献できる自分になろうと、強く誓う必要があった。」とも言っています。

私たち人間の一生は短くはありません。生きていれば嬉しいことや楽しいことがたくさんあります。しかし、逆に悲しいことや苦しいこともたくさんあります。そのような悲しいことや



苦しいことにぶつかった時、負けずに立ち向かっていこうとする意思や、乗り越えようとする気持ちがとても大切です。

そして、その立ち向かったという経験が、次にピンチに立たされた時に、うろたえたり、迷ったり、ふてくされたりせずに、堂々と立ち向かっていく自分を育ててくれます。そして、その悲しみや苦しみの壁が大きいほど、その人は、大きく強くなれるのです。

これからの皆さんの人生で「辛いこと」や「悲しいこと」に出会った時「艱難(かんなん)汝(なんじ)

を玉(たま)にす」ということわざを思い出してみてください。その苦しみや悲しみは、皆さんを磨き上げるやすりのような物です。その時は辛いけれど、乗り越えれば、更に光り輝く自分自身になれると信じて、立ち向かっていきましょう。

卒業生の皆さんが、困難に負けることなく、力強く自分の人生を歩んでくれることを大いに期待し、私の式辞といたします。



令和6年3月15日

松前町立松前中学校 校長 福島 泰正

卒業生の皆さんの活躍を心から祈っています!!